

ペプシノーゲン検査

胃がんになる危険性の高い方を見つける血液検査です。

※お申し込みの健診コースに胃の検査が含まれていない方におすすめします。

ペプシノーゲン検査とは

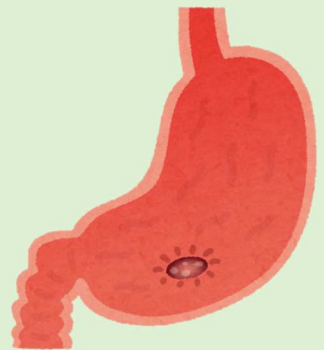
ペプシノーゲンは、胃液に含まれるペプシン（たんぱく質を分解する酵素）の元となっている物質で、胃の粘膜細胞で作られます。ペプシノーゲンは血液の中にも存在するので、この血液中のペプシノーゲンの値を測ることで「萎縮性胃炎の有無」を判断することができます。



萎縮性胃炎が進行すると胃がんになる確率が高まります

慢性的な炎症が長い間続いて胃粘膜の障害が進むと、胃酸を出す胃腺がひどく収縮して、胃の粘膜が薄く血管が透けて見えるようなペラペラの状態になります。

この胃粘膜が委縮した状態を『萎縮性胃炎』といいます。萎縮性胃炎を的確に診断するところが胃がんの早期発見につながります。



ピロリ菌検査も併せておすすめします

最近の研究で、萎縮性胃炎の原因のほとんどがヘリコバクター・ピロリ菌という細菌によって引き起こされていることが分かってきました。ペプシノーゲン検査と併せてピロリ菌検査を受けられることをおすすめします。



料金 3,000円 税込3,300円